

景観を切り口としたふるさと学習の手引き



目次

1. 景観を教育で扱うことの意義	1
2. 総合的な学習の時間（ふるさと学習）と景観	2
3. 景観を切り口としたふるさと学習の授業例	5
4. 事例	11



（左ページ写真）左上から時計回りに

【五島市】福江武家屋敷通り 【島原市】保里川家住宅
 【波佐見町】鬼木棚田と集落 【佐々町】旧塩田煉瓦造倉庫
 【川棚町】平島地区 【雲仙市】河磯橋 【佐世保市】教法寺イチョウ

（右ページ写真）左上から時計回りに

【東彼杵町】旧千綿村農協米倉庫 【松浦市】御厨の林叢群
 【壱岐市】大久保本店 【対馬市】青海の里

1. 景観を教育で扱うことの意義

長崎県は、古くからアジア、西欧との交流が盛んであり、他の地域には見られない歴史文化景観が県内随所で形作られてきました。また、2つの国立公園と2つの国定公園を有するなど、豊かな自然景観も魅力の一つとなっています。こうした個性豊かな景観は、県民のかけがえのない財産となっています。

本県では、離島、半島地域を多く抱える中、人口減少や少子高齢化が全国より早く進んでおり、大きな課題となっています。私たちが美しい景観を守り、育てていくことは、交流人口や定住人口の増加に繋がるものと期待されます。この美しい景観を守り、次の世代へ伝えていくためには、子どもたちが身近なまちの景観に愛着と誇りを持ち、景観は「みんなでつくるもの」という当事者意識を持つことが大切です。

景観教育とは、自分の住んでいるまちの身近な「景観」を切り口として、まちの魅力や課題を発見する学習であり、主に総合的な学習の時間におけるふるさと学習などで扱うことが想定されます。また、目標の設定次第では高校の総合的な探究の時間でも扱うことができる学習です。景観の見え方や感じ方は成長と共に変化するため、景観教育は、どの発達段階でも実りのある授業が可能であると考えています。

景観教育の目的

生まれ育ったまちの景観への愛着と誇りを育み、次世代のまちづくりの担い手を育成する

目指すべき人材像

景観の価値や可能性を理解し、景観をつくりあげるのは自分自身だという自負を持った人材

～ 景観とは～

私たちを取り巻く環境の見え方、「景色、眺め、風景」のことです。それぞれの地域において、異なる自然条件や、歴史、文化等をもとに、人々のさまざまな営みが積み重なってつくられています。

2. 総合的な学習の時間（ふるさと学習）と景観

【総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくため3つの資質・能力を育成することを目指す。

探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

〔引用：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領（平成29年度告示） 文部科学省〕

総合的な学習の時間は、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連や日常生活や社会との関わりを重視しながら、下記のような課題について、学校の実態に応じた学習活動を行うとされています。

- ・ 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（国際理解、情報、環境、福祉・健康など）
- ・ 生徒・児童の興味・関心に基づく課題
- ・ 職業や自己の将来に関する課題 など

景観教育も、総合的な学習の時間と同じく、様々な学習活動を横断的・総合的に展開できるものです。景観教育を進めることで、次章に記す「3.景観を切り口としたふるさと学習の授業例」の【課題の設定】や【情報の収集】などの活動を通して、下記のような総合的な学習の時間のねらいを達成できると考えます。

課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けること
 実社会や実生活の中から問いを見いだすこと
 積極的に社会に参画しようとする態度を養うこと

また、ふるさと学習のような、これまでの地域や環境を扱った学習に、景観の視点を取り入れることでも同様の効果が期待できます。

身近な景観を通して景観の大切さを学び、基礎的な知識や見方を身に付けることで、一人一人が景観をつくりあげる主体であると認識し、まちづくりに関わってもらうことが景観教育の目標です。

例えば、「景観」を意識することで、日常生活において、目についたゴミを拾うだけでも、地域の良好な景観形成に寄与することになります。そのような小さな活動の積み重ねが、社会参画への一歩となるでしょう。

子どものころから景観を意識することで、美しい景観を「美しい」と感じ、美しい景観を守りたい、つっていききたいという心を育みます。美しい景観は、人々のさまざまな営みが反映されてきたものであり、そこで生活する人や働く人、さらには訪れる人の心をも豊かにします。

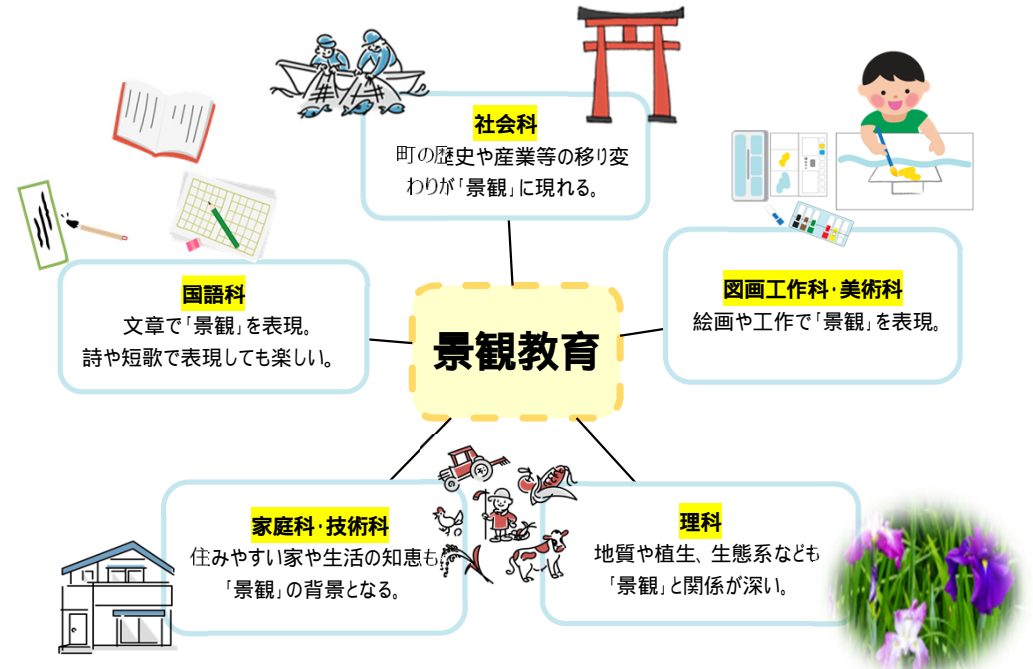


3 【講師から景観についてのオリエンテーション】



【作成した資料と関係者全員で記念撮影】

景観教育と他の科目との関係



景観教育では、「総合的な学習の時間」で取り組む題材としてだけでなく、他の教科等の学習と組み合わせて展開することもできます。

例えば、社会科の地域調べや歴史学習、国語の表現、図工の表現など関係づけながら、まちの景観を調べたり、景観の印象や感じた価値を詩のように表現したり、気に入った景観を写生したり、心に描く将来のまちの模型をつくりながら、**景観を切り口とした学習(景観教育)**を進めることができます。

3. 景観を切り口としたふるさと学習の授業例

【課題の設定】

景観についてのオリエンテーションやまち歩きといった体験活動を通して、課題を設定し、課題意識を持たせましょう。

○初級編(小学校低学年～高学年)

- ・住んでいるまちの宝物を見つけ、1つ選んで詳しく調べる。
- ・どのようなまちに住みたいかを考える。

○中級編(小学校高学年～中学生)

- ・住んでいるまちの良いところやもっと良くなる場所を見つけて、景観MAPを作成する。
- ・住んでいるまちの景観にちなんだPRグッズや商品を考える。



【実際に小学校で作成された景観MAP】

○上級編(中学3年生～高校生)

- ・住んでいるまちの魅力に結びつくようなオリジナルの景観形成を提案する。

○ポイント

子どもたちの発達段階や学校における教育目標等を踏まえて課題の設定をしましょう。
議論には、どうすれば**もっと景観が良くなるか**という内容を入れましょう。
最終目的には、どこが良くて、どこを良くしたいかを取り入れましょう。

【情報の収集】

実地調査やヒアリング、本やインターネットなどの中から、どのような方法でどのように調べれば、欲しい情報が得られるのか、子どもたち自身に考えさせながら情報収集を行わせましょう。また、適宜ヒントを与えたり、情報収集の場を提供しましょう。



○まち歩きを行う

設定した課題を意識してカメラで写真を撮りながらまち歩きを行う。

○まちに関わっている人へヒアリング

まちに長く住んでいる人やまちづくりで活躍している地域団体の方などに話を聞く。

○本やインターネットで調べる

学校のパソコン室や図書室、市町の図書館等を用いて調べる。



【グループに分かれてまち歩きを行っている様子】



○ポイント

無駄な写真はありませぬ。今後の取組の資料になるのでたくさん撮るように促しましょう。

○ポイント

ヒアリングを行う人を想定し、事前に了承を得たうえで、子どもたちにアポイントを取らせてみましょう。

○ポイント

公共施設の使い方やどうすれば効率よく調べたい情報が得られるのか学ばせましょう。

【整理・分析】

収集した情報をもとに意見交換を行ったり、地図に落とし込んでみましょう。
整理することで新たな発見を見つけましょう。

○自由に意見交換を行う

KJ法等を用いて意見交換を行い、他人の意見を聞くことで、新たな発見へ導く。同じ景観を見ても、人によって感じ方が違うことを学ぶ。

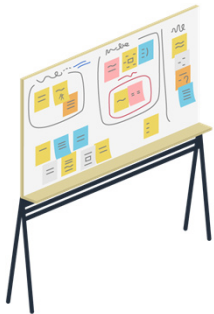


○マップを用いて整理を行う

マップに整理し、別の視点で考えることで、まちごとの特色や傾向など新たな発見を促す。



【撮影した写真やマップを使用してまとめている様子】



KJ法とは

アイデアをカードに記載し、カードをグループごとにまとめて、図解し、論文等にまとめていく方法です。（P10を参照）

○ポイント

集めた情報をどのように整理すれば相手に言いたいことが伝えられるか考えさせましょう。

○ポイント

言語だけでなく、図や絵、写真なども使いながら、自分の意見を伝える練習をさせましょう。

【まとめ・表現】

気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現しましょう。
【まとめ・表現】を通して意見を共有し、次の学習へ活かしましょう。

○まとめ方

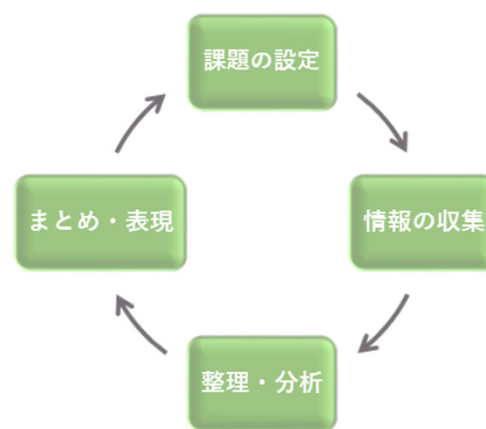
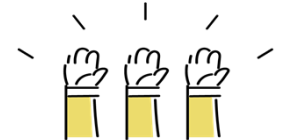
- ・マップ 事例
- ・絵 事例
- ・カレンダー 事例
- ・動画(CMなど) 事例
- ・模造紙やパワーポイント
- ・写真+説明文
- ・寸劇 など



【調査結果を模造紙にまとめ、発表している様子】

○表現方法

- ・学校内で発表（クラス内で、全学年の前で、保護者の前で）
- ・学校外で発表（他校の前で、関係団体の前で、首長の前で）
- ・展示会
- ・商品化 など



○ポイント

「まとめ・表現」を通して発見した新たな気づきや疑問を踏まえて課題を設定し、同じサイクルを繰り返すことで、さらに深く学習することができます。

意見交換を行わせるときのポイント

グループや組織でものごとに取り組む際に、中立的な立場から参加者に発言を促したり話の流れをまとめたりする人のことを**ファシリテーター**と呼びます。司会者との違いは、基本的に意見を述べないという点です。

ファシリテーターを行う場合は、自己紹介等の緊張を解くために必要なアイスブレイクを行い、「他人の意見を否定しない」や「最後まで相手の話を聞く」といったルールを設けるなど、意見を出しやすい環境を整えましょう。また、話の最中は傾聴を促すとともに、参加者全員から意見を引き出すことを意識しましょう。時には意見を整理することも必要になります。あくまで参加者が考え、意見をまとめ、決定するのをサポートすることが役割ですので、自分の主観や意見を介入させたり、最終決定まで行わないように注意しましょう。

ファシリテーターがいれば、子どもたちからたくさん意見を引き出すことができます。

ファシリテーターは先生の役割とは限りません。

- 自治会活動をしている地域の方、PTAの方など周りの方にやってもらう
 - コミュニケーション能力育成の一環として子どもたちにやってもらう など
- 授業の規模や目的に応じて、役割を分担してもよいでしょう。



【ファシリテーターの紹介】



【子どもたちに寄り添い、意見を聞くファシリテーター】

KJ法について

KJ法は、自由にアイデアを記載させることで、参加者全員の意見を引き出し、まとめるために用いられる手法であり、下記の4つのステップで構成されます。「図解化」「文章化」をさせることが難しい場合、「グループ化」までの実施でも、子どもたちから意見を引き出すには、とても有効な手法となります。

ラベル化

- ・一枚のカード(付箋)に一つアイデアを書く
- ・模造紙やホワイトボードなどに並べる

ポイント

批判しない、自由に発言、質より量

グループ化

- ・類似ラベルを集めてタイトルをつける
- ・さらに類似グループを集めてタイトルをつける
- ・グループ化できないものは1枚にしておく

ポイント

少数意見も大切に

必要であれば実施

図解化

- ・矢印などを用いて関係性を図解化する

ポイント

グループ間の関係性を矢印などで表す

文章化

- ・図解化したラベルを参考に文章化する

ポイント

ラベルに書かれた言葉をできるだけ用いて文章にまとめる



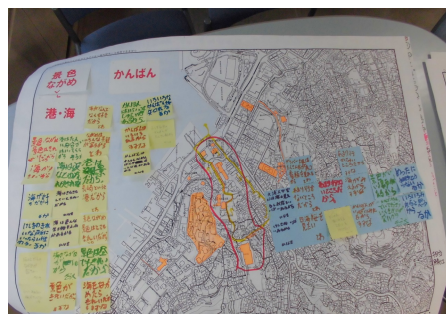
4.事例

実施学年：小学5年生 74名 10班
 時間数(分)：245分
 教科：総合的な学習の時間

<p>長崎市立 大浦小学校</p>	<p>大浦景観マップを作ろう！！</p>
<p>課題の設定 景観について知る (90分)</p>	<p>景観について学ぶ(学校周辺の身近な景観) 大浦小周辺(自分の暮らす身近な地域)の景観のよいところを考える ・まちあるきのテーマ 1、場所を決める(班ごと)</p>
<p>情報の収集 景観を調べる(まちあるき) (45分)</p>	<p>大浦の景観を調べる(班ごと) 特色を見つける、気づく ・各班テーマに沿った____な景観について 2 写真を撮る [付箋：気づいたことを記入 3 地図：写真撮影場所を記入</p>
<p>整理・分析 (50分)</p>	<p>地図にまとめる(班ごと) 4 ・気づいたこと、感じたこと ・写真撮影場所 ・撮影した写真を貼り付ける</p>
<p>まとめ・表現 (60分)</p>	<p>景観マップを作る ・景観マップのタイトルを決める 発表 ・各班でテーマに沿った景観マップを発表する ・おすすめポイントを説明する</p>

- (1) 【テーマ(案)】
- ・斜面地住宅
 - ・洋館
 - ・坂道(階段)
 - ・看板
 - ・港
 - ・塀、石垣
 - ・石畳
 - ・景色(眺望)
 - ・樹木、植栽
- (2) 【 ____な景観(案)】
- ・好きな景観
 - ・おもしろい景観
 - ・大事にしたい景観
 - ・ステキ!と思う景観
 - ・じまん・紹介したい景観
 - ・僕(私)だけが知っている景観
 - ・ふしぎな景観
 - ・気になる景観
 - ・ここにしかない景観
- (3) 【付箋：気づいたことを記入】
 KJ法の「ラベル化」
- (4) 【地図にまとめる(班ごと)】
 KJ法の「グループ化」

景観マップ



4.事例

実施学年：小学3年生 30～50名
 時間数(時間)：20時間
 教科：総合的な学習の時間

長崎市立 稲佐小学校	いなささるく
課題の設定 (2時間)	○自分たちの暮らす身近なまちの宝ものを考える
情報の収集 (10時間)	○宝もの探しにまち探検 ・写真を撮る ・イラストを描く ・いなさの街の歴史ある建造物のことなどをまちの人に話を聞く
整理・分析 (5時間)	○地図にまとめる ・安全マップや地域マップに表現する
まとめ・表現 (3時間)	○発表会 ・出来上がったマップをもとに発表する

○今後に向けての課題

「まち探検」で、引率する職員が限られているため、グループ学習やグループでの行動が困難であった。今後も保護者の参加がスムーズにできるように計画していきたい。

4.事例

実施学年：小学6年生 19名
 時間数(時間)：8時間
 教科：図画工作


長崎市立 小ヶ倉小学校	長崎市の文化財など
課題の設定	長崎市内で他の地域の人に見せたい、紹介したい場所はどこか考える。
情報の収集 (1時間)	○絵の題材の調査 ・自分たちの暮らす身近なまちの様子を直接もしくは写真等で見る
整理・分析 (6時間)	○絵の作成 ・自分が気に入った場所を絵に表す
まとめ・表現 (1時間)	○発表会 ・出来上がった絵を見せ合い、自分が気に入った場所をお互いに紹介しあう

完成作品



4.事例

実施学年：小学6年生 9名(本校7名：分校2名)
 時間数(時間)：17時間
 教科：総合的な学習の時間

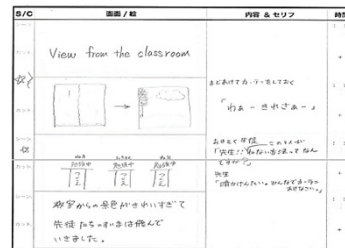
小値賀町立 小値賀小学校	小値賀の魅力を伝えよう ～子ども景観カレンダー作り～
課題の設定 (3時間)	○景観についてゲストティーチャーから授業 (1時間) ○カレンダー作りにおけるテーマや見学島を決定 テーマ：「見せたい！心温まる小値賀町」 (2時間)
情報の収集  (9時間)	○写真撮影 ・写真の撮り方について勉強後、撮影場所をおおまかに決め、2つのグループに分け、それぞれルートを決定する (2時間) ・デジタルカメラ等で撮影(納島・小値賀町内) (3.5+3.5=7時間)
整理・分析 (4時間)	○カレンダーの作成 ・写真を選ぶ (2時間) ・伝えたい思いを文章にする (2時間)
まとめ・表現 (1時間)	○発表会(授業参観) ・これまでの活動報告を行う ・写真やコメントを発表する (1時間)

4.事例

実施学年：中学3年生 3名
 時間数(時間)：31時間
 教科：総合的な学習の時間

佐世保市立 黒島小中学校	ふるさと黒島をPRするCM制作
課題の設定 (7時間)	○ふるさと黒島のよさをCMを通して発信するために必要な要素について考える
情報の収集 (12時間)	○写真・動画の撮影 ・校外学習にてCMを作成するための素材となる画像と動画を撮影する
整理・分析 (2時間)	○動画の作成 ・ふるさと黒島のよさを発信するCMを編集する
まとめ・表現 (10時間)	○発表会 ・CMを学習発表会で発信する ・CMコンテストへ出品する

絵
コン
テ



写
真



検討・策定

検討：長崎県景観教育検討委員会(令和2年1月～令和4年3月)

委員長 渡邊 貴史 長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科 教授

委員 江頭 明文 NPO法人長崎 SDGsクラブ 副代表理事

鉄川 進 一般社団法人 長崎県建築士会 会長

吉田 護 長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科 准教授

策定：長崎県

タイトル「景観を切り口としたふるさと学習の手引き」

令和4年3月作成

ホームページ

下記のURLには、景観を切り口としたふるさと学習を実施する際に参考となる資料を掲載しております。併せてご参照ください。

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/machidukuri/toshikeikaku-kokudoriyo/keikan/546023.html>

長崎県土木部都市政策課景観まちづくり班
〒850-8570 長崎市尾上町3-1
TEL 095-894-3151(直通)